



創立1880年
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL http://tokyo.ymca.or.jp/
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 菅谷 淳

東京YMCA

2019年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

東日本大震災8年 支援活動続く

東日本大震災から8年目を迎えた3月。東京YMCAは被災地の復興を願い、各地で街頭募金を行なったほか、下記プログラムを実施しました。

●ふくしまキッズスキークラブ



震災後の福島で「子どもを思いっきり外で遊ばせたい」との声が寄せられたことから2015年にスタートした「YMCAふくしまキッズスキークラブ」を、今年も3月9日、星野リゾート猫魔スキー場(北塩原)で開催。福島の小中学生39人が参加しました。福島では震災後、放射能の影響や生活環境の変化などから、以前のようにスキーを気軽にできない児童が増え、今回も定員をはるかに上回る希望がありました。参加した子どもたちは、YMCAのボランティアリーダーの指導で元気いっぱい滑走。年に1回ではありませんが、日清製粉グループ、星野リゾート猫魔スキー場および多くの方の募金により子どもたちに楽しい機会を提供できることを心より感謝します。(ぐんまYMCA総主事 村上祐介)

●揚がれ!希望の凧 (東京町田YMCA)

「私たちは被災地を忘れません」との思いをこめて凧を揚げる「揚がれ!希望の凧」。震災1周年からワイズメンズクラブと共催で続けているこのイベントを今年も3月10日、近隣のNPO法人や社会福祉協議会に協賛・後援をいただき、玉川学園子ども広場で実施しました。(東京町田YMCA会員 伊藤幾夫)

●石巻ワークショップ

東京YMCA医療福祉専門学校の学生有志8人と教員2人が3月18~20日、石巻の『グループホーム長寿の郷・広瀨』を訪問。日ごろの学習成果を駆使してレクリエーションやクラフトなどを行ない、入居者と共に楽しいひと時を過ごしました。この訪問活動は震災直後から年2回継続しており今回で16回目。毎回、貼り絵など「形の残る作品」を一緒に制作しており、施設内には代々の作品が展示されています。今年は日めくりカレンダーを作りました(=写真)。最近訪問客も減ったとのこと、被災地の方々は学生たちを大変歓迎してくださり、帰り際には涙ぐむ姿も見られました。現地ガイドの案内で市内近郊の見学もした学生たちは、「震災を風化させないために」と、4月に校内で報告会を行なう予定です。(医療福祉専門学校教員 渡邊義昭)



●のんびり親子リフレッシュキャンプ

福島の親子を対象に、震災直後から三菱商事の協賛で実施している「リフレッシュキャンプ」は2月9日~11日、「高尾の森わくわくビレッジ」を会場に、40人の親子を迎えて開催。施設内のグラウンドや体育館でボランティアリーダーと共に遊んだほか、江の島ツアーへも出かけました。このキャンプは今回で累計76回、延べ参加者は2800人を超えました。昨今は放射性物質の影響は減ってきたものの、不安をかかえる保護者は多く、他のご家族との関係を築きながらリフレッシュするこのキャンプは、次年度も継続実施の予定です。(会員部 小松康広)



↑壁を撤去した山手会館1階事務所

山手会館 リニューアルオープン

水泳レッスン付きの
放課後等デイサービス
「PIT西早稲田」もスタート

山手コミュニティセンター
主任主事 星住 秀一

気軽に寄れる 開放的な会館に

⇒後援会の寄付でキッチンや家具も一新した山手学舎



⇒放課後等デイサービス「PIT」の教室



2018年7月から実施してきた山手会館の耐震工事および内装工事が、築の地下2階地上5階建の壁を撤去してロビーを広くしたほか(=写真上)、受付もローカウナーとするなど、利用者の顔が見えやすくなるよう随所に工夫をこらしています。また、全館の床の張り替え、壁の補修、照明のLED化、トイレや子ども用水道の取替えなど、設備も刷新し、明るく快適な施設として生まれ変わりました。

約半年間にわたる工事中は、代替施設を使用していたが、この「PIT西早

稲田」は、水泳が習えることが特長です。仲間と楽しみながら泳ぎを覚えていく中で、体力の向上をはかると共に社会性を身につけ、また上達していく体験を積むことで、何事にも前向きに取り組む自信をもてるよう指導してまいります。水泳ができる「放課後等デイサービス」は都内でも珍しいことから、PITは受付開始直後からキャンセル待ちが出るほどの人気となっております。

PITは「地には平和」を意味するラテン語の頭文字です。YMCAが長年行なってきた水泳指導や発達障がい児支援などの経験をフルに活かして運営してまいります。そして新しくなった山手会館全体が今まで以上に「誰もが平和に過ごせる場所」になるように願っています。

また山手コミュニティセンターは4月、放課後等デイサービス「東京YMCA PIT(ピット)西早稲田」をスタートしました。発達に課題を抱える小中高生に居場所と療育プログラムを提供する児童福祉法上の事業で、東京YMCAは2016年度から西東京センター内でも実施していましたが、この「PIT西早

稲田」は、水泳が習えることが特長です。仲間と楽しみながら泳ぎを覚えていく中で、体力の向上をはかると共に社会性を身につけ、また上達していく体験を積むことで、何事にも前向きに取り組む自信をもてるよう指導してまいります。水泳ができる「放課後等デイサービス」は都内でも珍しいことから、PITは受付開始直後からキャンセル待ちが出るほどの人気となっております。

PITは「地には平和」を意味するラテン語の頭文字です。YMCAが長年行なってきた水泳指導や発達障がい児支援などの経験をフルに活かして運営してまいります。そして新しくなった山手会館全体が今まで以上に「誰もが平和に過ごせる場所」になるように願っています。

赤三角

私が東京YMCA国際ホテル専門学校で働き出して5年が過ぎました。30年以上前に学生として在籍していた当時は今の倍近い学生数だったこともあり、山手会館のほぼ全てがホテル学校でしたが、久しぶりに来た学校には高等学院もでき、多様な方の出入りのある場所となっていて驚きました。▼着任当初は、なかなか「...」と思ったのが正直な感想でした。というのも、他部門が増えた分、教室や設備などを譲り合わねばならない状況を目にしたからです。とは言ってもそれは大きな問題で無く、しばらく経過するうちに、逆に共存していることで学生にとってもメリットがあることがわかってきました▼

副校長 岡崎(朗)

本来「学校」とは先生と学生だけの閉鎖的な場所ですが、日常的に色々な人と触れ合うことで、知らない人とも当たり前のように挨拶し、お年寄りや小さなお子様に手を貸すことを当然と思う学生が増えていくと感じられました。私自身、後天的な身障者ですが、当校の学生と一緒に時にストレスを感じることはありません▼今後も山手会館にさまざまな事業が共存していけることがホテル学校の更なる発展につながると思っております。

2019年度 運営方針 「若い命を豊かに育む」ために



↑4月1日に都内2カ所で開催した全体職員会

さらなる深化・発展を目指して

総主事 菅谷 淳

2019年度が始まりました。今年度の運営方針は、昨年度までの中期計画の「若い命を豊かに育む」というメインテーマをもとに、骨子となる①会員・コミュニティの充実、②人材育成、③新規事業開発、④設備投資の4つの柱は変えず、それらをさらに深化させた内容となっています。特にYMCAの行っている運動、活動事業が、現代社会のニーズやウォンツにきちんと応えているかどうかという視点を大切にしています。折しも2030年までに達成すべき持続可能な開発目標

である「SDGs」が国連で採択されて早4年、SDGsを意識すること、私たちの活動を、独りよがりではなく世界中が向かう目標と合致させていくチャンスであります。また現在進めている全国YMCAブランドディング・プロジェクトでは、YMCAが目指すゴールを全国で一斉させるべく、研究と検証を積み重ねています。外見には統一されてきつたある国内YMCAですが、内面的にもYMCAが一つとなり、YMCAを知らない人にもわかりやすく、寄付や募金をしたく

もつとも喫緊の課題が「人材育成」です。YMCAはモノを製造するメーカーでもそれを販売する商社でもありません。会員やボランティア、職員という人が人に「良質な」サービスを提供する人の集まりのアソシエーションです。ここで「良質な」ということが大変重要で、それは私たちの理念であるキリスト教の愛と奉仕の精神をベースに「精神、知性、身体」の全人的成長を促すとい

うことです。そしてYMCAに関わった人全員が「みつかる。つながる。よくなる」という価値(ブランドバリュー)を享受できるように組織を整えなければなりません。そのための人材獲得と人材育成はYMCAにとって最も重要な部分です。

さて、前述したようにYMCAの既存の働きが社会のニーズに合っていることがわかったら、「はい、それで終わり」ではありません。新たなニーズを発掘し、行政も他団体も行っていないYMCAだからこそできる新規事業を考えていかなければYMCAの成長は止まります。様々な分野における専門家を交え、柔軟で新しい発想を持つ若手を加え、YMCAな

2019年度 運営基本方針

未来に向けて東京YMCAの現行の事業や活動が、変容する現代社会のニーズにしているかどうかという視点で一つ一つを検証し大胆に新規事業に挑戦していく。東京YMCAに連なるすべての人が一体となって「若い命を豊かに育む」ための事業およびプログラムを積極的に展開する。

1. 社会のニーズやSDGsとの整合検証

社会や地域で必要とされていることや「SDGs (持続可能な開発目標)」と、東京YMCAが現在行っている事業や活動がマッチしているかどうかを専門家を交え理事会、評議員会、グループ会議、管理職会議、会員部運営委員会、国際委員会、プロジェクトチームなど各種会議体で検証し、変えるべきものと変えてはいけないものを見極めて将来のビジョンを策定する。

2. 会員制度の見直しと会員活動の活性化

YMCAにおける会員とは何かを明確にした上で新規会員の獲得に努め、より活発な会員活動を展開する。

3. 新しいブランディング戦略の展開

全国ブランディング・プロジェクトの次のステップとして、YMCAが目指す事業領域と事業戦略を全国で足並みを揃えつつ、具体的に事業化しプログラムとして展開する。

4. 施設の拡充

自前の施設を中心に優先順位をつけて適正かつ円滑にバリューアップを行う。

5. 働き方改革と人材育成

労働環境を整え、要員計画に基づいて新卒採用・既卒採用・内部採用を積極的に行い、YMCAに必要な人材確保と育成のために、きめ細やかな研修プログラムを企画、実施する。

6. 新規事業の開発

会員、職員一人一人が社会の変化、ニーズ、SDGsに対応する新たなYMCAの活動、事業を積極的に提案し実行に移す。

7. 財政の健全化

引き続き、事業の持続可能性を高めるために財政の健全化に取り組む。

2019年度 主な会員活動 (予定)

会員有志の企画・運営でさまざまな地域奉仕活動を行なっています。どなたでもご参加いただけます。ぜひご予定ください。

- ・5月11日 神田川船の会 (10月にも開催)
- ・6月22~29日 会員芸術祭
- ・8月24日 夏まつり (東陽町センター)
- ・9月14日 国際協力街頭募金
- ・9月23日 インターナショナル・チャリティーラン
- ・10月14日 会員ソフトボール大会
- ・10~11月 バザー (各センターで開催)
- ・11月23日 江戸城ファミリーウォーク
- ・11月予定 ソシアス2019 (会員協議会)
- ・11月~12月 クリスマス会 (各センターで開催)
- ・12月15日 東陽町クリスマスオープンハウス
- ・1月予定 子育て講演会



詳細はHPで <http://tokyo.ymca.or.jp/community/>

- 【月例プログラム】-----
- 早天祈祷会/毎月1日 (原則)
 - WHO (ウォーキングホリデイ オギクボ) /月1回
 - 中国語聖書に親しむ会/第2火
 - 歌の広場/各地で月1回程度開催
 - わくわく科学実験室/第3土
 - のどトレ教室/第2火
 - ペタペタの会/年2回予定
 - 音訳ボランティア 「シジウカラ」/第1・3水
 - 午餐会/2か月に1~2回
 - 下町子どもダイニング/第3月
 - おもちゃ病院/第4木
 - にほんごde Cafe/第1・3木
 - クリーンウォーク/第2金 ほか多数

子育てコラム



自然は学びの宝庫

皆さんは、「バイオミメティクス」という言葉を耳にしたことがありますか？ 私たちの生活の中には、「生物」「自然」からヒントを得て作られたものがたくさんあります。例えば、子どもの頃に公園や野原などで遊んだ「オナモミ」からは、その衣類などにくっつく特性を利用してマジックテープが開発されました。また、ヨーグルトのフタ(裏)の撥水加工には、「蓮の葉」が

皆様は、「バイオミメティクス」という言葉を耳にしたことがありますか？ 私たちの生活の中には、「生物」「自然」からヒントを得て作られたものがたくさんあります。例えば、子どもの頃に公園や野原などで遊んだ「オナモミ」からは、その衣類などにくっつく特性を利用してマジックテープが開発されました。また、ヨーグルトのフタ(裏)の撥水加工には、「蓮の葉」が

その発想や情懷を豊かに育むと同時に、「いのち」を考える第一歩になると思っています。小さな一つのきっかけが自然や生物への興味をもたらし、それはやがて自然と人間との関わりを理解することへ繋がります。

ゲームが主流の今日、体験して欲しいのは、バーチャルではなく「リアル」「ネイチャー」の世界です。生活を豊かにするために、利便性向上のために日々様々な開発が進む一方で、自然や環境保護についても考えなくてはなりません。私たちの生活との密接な関係(仕組み)を子どもたちと共に学び、考えていきたいと思えます。

芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ
副館長 上瀧 徹也

「いじめに中立」はない？ 「傍観者」が握る抑止の力

世界的いじめ反対運動
「ピンクシャツデー」開催

いじめのない社会を目指す、今年も全国のYMCAは2月27日、世界的いじめ反対運動「ピンクシャツデー」を実施。園児や生徒、教職員がピンク色の服や小物を身につ

け、いじめ反対をアピールしたほか、毎年この日に特別公開授業を行なっている高等学院は、今年もNPO法人「ストップいじめ！ナビ」の弁護士・足立悠さんと金子春菜

さんを講師に招き、いじめとは何か、どうすれば防げるかを学びました。

◇ ◇ ◇
授業ではまず、身近な事例をもとに「いじめ防止対策推進法」について

学習。この法律では「無視しただけ」「被害者にも非がある」など一切の事由によらず、「やられた人が心身の苦痛を感じたらいじめである」と定められており、足立弁護士は「何がいじめなのか、共通理解がなければいじめは防げない。ぜひこの法律を覚えてほしい」と力説しました。



「にほんご学院」の留学生たちも、ピンクの服や小物を持ち寄ってアピールしました



「ピンクシャツデー」

2月第4水曜日にピンクの物を身につけていじめ反対をアピールする運動。2007年カナダの学校で、ピンクシャツを着て登校した少年がゲイだといじめられたのを見た友人たちが、数十枚のピンクシャツを購入して皆で着たところ、いじめが自然になくなったというエピソードから始まった。現在約70カ国で行なわれている。

「加害者に直接注意すると、逆にいじめのターゲットにされてしまうこともあるため注意が必要ですが、いじめられている側にさりげなく声をかける、話を聞く、場の雰囲気を変えるなど、できることをできる範囲でして欲しい」と弁護士、Y M C Aは今後も引き続き「傍観者にならない」よう、この運動に取り組んでいきます。

■介護現場でのIoT活用

医療福祉専門学校が公開講座

高齢者の居室に取り付けた行動検知センサーがスタッフのスマホに連絡してくる。「Aさんは昨夜、睡眠不十分だったので転倒に注意が必要です」「Bさんは歩行速度が遅くなっているのでリハビリが必要です」——。そんな先進的な介護の取り組みを探るため、東京Y M C A 医療福祉専門学校では2月21日、「介護現場でのIoT活用事例とこれから」をテーマに公開講座を実施。施設関係者や学生などが参加し、コニカミノルタ株式会社の「ケアサポートソリューション」を実際に操作しながら、これから介護現場がどう変わっていくかを学びました。



I o Tとは、インターネットを活用したさまざまな機器の連携のこと。今回ご紹介いただいた「ケアサポートソリューション」(写真)は、居室のセンサーとスタッフが携帯するスマホを組み合わせた見守りシステムで、たとえば認知症の方の表情を把握し、その変化を察知して感情の爆発を回避するなど、さまざまな可能性があると言われてい

ます。介護の需要が高まる現場で、新たなシステムをうまく活用し、より良い介護、リハビリを生みだして欲しいと願っています。

(医療福祉専門学校 八尾勝)

■留学生がスピーチコンテスト

東京Y M C A にほんご学院



「東京Y M C A にほんご学院スピーチコンテスト」が2月15日、社会体育・保育専門学校を会場に行われ、各国の留学生13人が出場。日本の文化・風習についての考えや母国への思いなど、バラエティに富んだスピーチを披露しました。スピーチ前に行われたクラスメイトによる応援演説は、「彼はクラスの人気者。絶賛カノジョ募集中！」などユーモアにあふれ、張り詰めた会場を和ませてくれました。いずれのスピーチもレベルが高く審査員を悩ませましたが、優勝には、困難を乗り越えてチャレンジし続けることの大切さを力強く語った中国出身・徐君豪さんの『ヒーローの育て方』が選ばれました。

開催にあたり、東京ワイズメンズクラブ、東京世田谷ワイズメンズクラブ、東京多摩みなみワイズメンズクラブから計約10万円をいただき、入賞者にお米やクオカードなど賞品を贈呈することができました。地域の方も来場くださり、学生たちの良き思い出となりました。心より感謝いたします。

(にほんご学院校長 小野実)

■不登校など青少年支援20年

libyチャリティーコンサートに220人

不登校などの青少年の居場所「東京Y M C A オープンスペースliby (リビー)」を支援するため、開設以来毎年開催されているチャリティーコンサートが、3月2日に第20回を迎えました。会場の日本基督教団阿佐ヶ谷教会には、約220人が来場。「三菱商事コーラス

同好会」による壮麗な合唱と「越智光輝と愉快な仲間たち」による洒落たジャズ&クラシックの演奏を楽しみました。

今年も、東京たんぼぼYサービスクラブ、三菱商事株式会社、日本基督教団阿佐ヶ谷教会など、10社・団体の協賛・協力を得て行われ、募金額は約19万円となりました。

20回連続で実行委員長を務めている越智京子さん(=写真左)ほか、多くの方がlibyをお支えくださっていることに、改めて感謝申し上げます。(liby担当主事 井口真)

■ワイズカップサッカーが第50回

伊豆大島の小学生も参加

Y M C A の子どもたちにサッカーの試合を体験させたいと、「東京江東ワイズメンズクラブ」が約30年前



に始めた「Y M C A ワイズカップサッカー大会」が3月3日、50回目の大会を開催しました。この「ワイズカップ」は、低学年の子どもが参加できる数少ない試合としても人気があり、年2回、江東区内外から500人ほどが参加しています。

この日も16団体から計543人の小学生が木場公園に集合。あいにくの雨にもかかわらず、思いっきりプレーしました。2013年の伊豆大島台風災害以来交流を続けている「大島マリン

ズ」からも小学1~2年生16人が出場し、初めての対外試合を楽しみました

(江東コミュニティーセンター 米澤竜彦)

■東京大空襲体験画展 & ピースコンサート



平和の大切さを訴えたいと3月4日~10日、「東京大空襲(1945年3月10日)の体験画展」を東陽町コミュニティーセンターで開催。江東区深川地域の惨状を描いた絵画100点をロビーに展示しました。戦争の悲惨さといのちの大切さを静かに訴えかける作品群に、会館を出入りする多くの方が足を止め、会場に備えたノートにはたくさんの感想が寄せられました。「展示の絵は、ただただ戦争はだめだ、二度と起こしてはならないと私たち現代に訴えています」「平和を誓うこと・・・それが亡くなった方々への深い哀悼だと思います」。

また今年も、例年3月に深川地区の戦災慰霊碑を巡る「ピースウォーク」(東京ひがしワイズメンズクラブ主催)が25周年を迎えたことを記念し、同クラブと東陽町コミュニティーセンターが共催で3月10日のピースウォーク後に「ピースコンサート」を行ないました。絵画展会場に、アイリッシュハーブや馬頭琴の音色にのせた平和への祈りが響き渡り、参加者は皆、「戦争は嫌だ、二度と起こしたくない!」という思いを強くしました。(東陽町コミュニティーセンター 沖利柯)